

2020 年度 FIC オープンセミナー

フィリピンをフィールドとするアーティスト、 キュレーターによるオンライン講座

2020 年 12 月 20 日 (日)

15:00~16:30 (マニラ編) 19:00~20:30 (ビサヤ編)

主催 法政大学国際文化学部

法政大学国際文化学部では今年度新型コロナウイルスの影響により多くの留学プログラムが中止となりました。東南アジア各国で開催される予定であった海外フィールドスクール*についても今年度は開催できませんでしたが、海外での学びを少しでも補完できるように、海外をフィールドとして活躍する美術関係者に焦点を当てたオンライン講座を実施します。

この企画では 2020 年度海外フィールドスクール表象文化コースの実施が予定されていたフィリピンのマニラ及びビサヤ地方で活動をする日本人アーティストやキュレーター、研究者などの美術関係者に、現在のコロナ禍での文化活動の現状やご本人の現在の活動状況について報告していただきます。また、本学部の卒業生で、東南アジアのアートシーンに詳しい池田佳穂がモデレーターとして参加します。

* 海外フィールドスクール

<https://www.hosei.ac.jp/kokusai/ryugaku/dokuji/fs/>

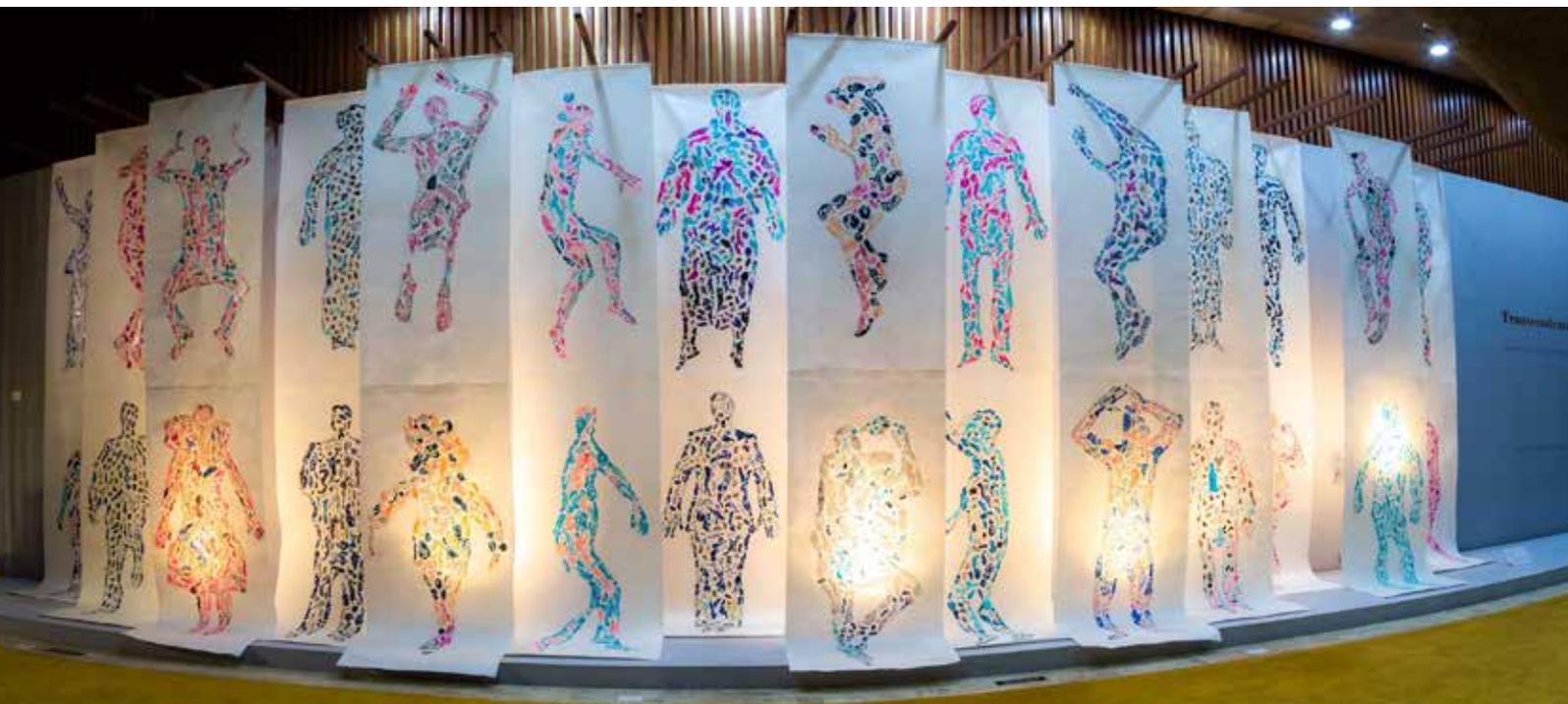


上：矢木奏

"Where Do We Come From? What Are We? Where Are We Going?" 2019
Single channel video with sound 8:13 Installation View at Cultural
Center of the Philippines

下：山形敦子

"Transcendental" at Cultural Center of the Philippines



開催日時

2020年12月20日（日）

15:00～17:00 マニラ編：平野真弓・山形敦子 司会：稲垣立男

19:00～21:00 ビサヤ編：矢木奏・稲垣立男 司会：池田佳穂

参加対象

当日の視聴は本学学生及び教職員に限定します。前日までに下記のフォームより申し込みください。当日午前中までにZoomのアドレスをお送りします。

<https://docs.google.com/forms/d/1N2BswJNcrMJJaWFpzHtc0aWIAJciMsNZLsc90K0XGAI/edit>

2020年12月20日以降に録画した映像をYouTubeで一般公開しますので、学外の方もご覧になることができます。配信URLについては、公開時にお知らせします。

矢木奏 “Where Do We Come From? What Are We? Where Are We Going?” 2019 Single channel video with sound 8:13 Installation View at Cultural Center of the Philippines

プロフィール

平野真弓



フリーランスのキュレーター。マニラと大阪を拠点に活動中。2016年よりアートプロジェクト「ロード・ナ・ディット」を共同主宰。リサーチャー・エジュケーターのテッサ・マリア・グアソンとルイス・サラスと「Curating in Local Contexts」ワークショップを主宰。フィリピン大学ディリマン校芸術学部講師。

山形敦子



美術作家。2012年よりマニラ在住。マニラを拠点に個展やグループ展に参加するなど活動する。近年の主な展示に、2020年個展『Do you hear it?』Art Informal Gallery（マカティ市）、2019年 Mervy Pueblo との二人展『Transcendental』カルチュラルセンター・オブ・ザ・フィリピン（パサイ市）など。
<https://atsukoyamagata.com/>

池田佳穂



2015年法政大学卒業。現在、森美術館キュラトリアル・アシスタント。2017年よりインドネシアのオルタナティブ、DIYシーンの調査をはじめ、レジデンス事業や展覧会を国内外で企画する。関心は、政治、社会、宗教に関わるアート表現及びプロジェクト。近年では東・東南アジアの版画コレクティブに着目して調査、2018年 LUSH Summit（ロンドン）にて版画ワークショップを担当し、2019年静岡大学にて特別講師を務め、東南アジアの版画手法とコレクティブ文化をレクチャーした。

矢木奏



美術家。東京造形大学造形学部美術学科絵画科卒業。現代美術センター CCA 北九州リサーチプログラム修了。2013年より東南アジア各国の社会とアートの状況を見て回り、刺激を受ける。近年、一年の半分はフィリピンに滞在し、精神世界とその創造性についてフォーカスしたリサーチと制作を行っている。最近の展覧会として、「The Probability -neither yes nor no-」（フィリピン文化センター、マニラ、2019）、「Trace the Wall」（アーツロピカル、沖縄、2019）、「Metabolism of the Wall」（ロードナディット、マニラ、2018）など。現在シキホール島に滞在中。

稲垣立男



美術家。法政大学国際文化学部教授、2018年度フィリピン大学ディリマン校芸術学部客員研究員。1992年にフィリピン・パコロド市で開催された国際展「VIVA EXCON」への参加をきっかけに国際的な活動を開始。稲垣のアートプロジェクトは本質的に共同作業であり、地域特有の形を踏まえて進められる。また、美術と教育に関する調査やプログラム開発を行っている。

連絡先

法政大学国際文化学部 稲垣立男
tatsuoinagaki@hosei.ac.jp